

科目名	音楽データベース1		科目コード	1916	
開講学科	音楽学科	単位数	4	形態	演習
教員名	石上和也・泉川秀文・出口実紀				
授業の目的及びテーマ					
<p>本演習では、音楽資料のデータベースに関わる現状と利用方法を理解するとともに、諸資料をデータベース化するための考え方や方法を学ぶ。本演習でいうところの音楽データベースとは、音楽に関連する諸情報をコンピュータによって検索や更新が可能なたちにした情報ファイルおよび、その集合体を指す。IT 社会においては、ありとあらゆる情報がデータベース化されていく。また日々、増え続ける膨大な情報は、データベース化しなければ、死蔵されたのと同じであると考えべきである。また、こんにち様々な機関で公開されているデータベースを検索し、情報収集する能力が、これからの音楽研究や創作活動に不可欠なものとなるであろう。そこで、本演習では、データベースの仕組みと活用法を理解するとともに、音楽に関連する資料のデータベース化の方法を学ぶ。</p>					
授業概要					
<p>本授業は、単に情報処理技術としてのデータベース構築の方法を身に付けるのではなく、音楽の研究に重要となる資料の取り扱いや評価方法、情報の整理や保存方法等を、音情報や楽器、芸能等に関連した事例により理解する。テキストによる学習では、音楽の基本的要素である「音」をテーマに、物理学、音響学、生理学、心理学、音楽学、音響学、言語学、社会学といった幅広い観点から、どのような音の情報を扱うことに意義があるか、考察を深める。スクリーニング時には、データベースの基礎知識やアプリケーションの操作方法を理解する。また、楽器から得られる諸情報のドキュメンテーションの方法論を学ぶ。まず、音楽データベースの作成には、様々な状態の資料をコンピュータで処理可能な形態にデータ化しなければならない。また、それらのデータファイルを整理・統合することによって、検索や更新が効率的に行えるような構造化が必要となる。そこで、情報音楽演習室ほかの設備を使用し、データベースの活用方法と、設計、作成の方法を学習する。</p>					
授業計画					
<p>第 1 回：オリエンテーション／音楽データベース概説／データベース研究への姿勢</p> <p>第 2 回：個人の既得音楽情報の考察1ーネイティブな音楽情報とはー</p> <p>第 3 回：データベースの基礎ー情報化のプロセスー／マルチメディア音楽データベースとは①</p> <p>第 4 回：データベースの基礎ー情報化のプロセスー／マルチメディア音楽データベースとは②</p> <p>第 5 回：実習計画書の作成ー録音実習に向けてー</p> <p>第 6 回：実習計画書の見直し・修正／スタジオ録音技術の解説</p> <p>第 7 回：録音実習(スタジオ／フィールド)①／フィールド録音技術の解説</p> <p>第 8 回：録音実習(スタジオ／フィールド)②</p> <p>第 9 回：録音実習(スタジオ／フィールド)③</p> <p>第 10 回：録音実習(スタジオ／フィールド)④／まとめと考察</p> <p>第 11 回：録音データの確認・分析・選定</p> <p>第 12 回：ドキュメンテーション実習：音声(音声編集ソフトウェアを用いて)</p> <p>第 13 回：オーサリング実習：フォルダ管理モデル</p> <p>第 14 回：相互発表会／プレゼンテーション①</p> <p>第 15 回：相互発表会／プレゼンテーション②／まとめ</p>		<p>第 16 回：オリエンテーション／フィールドワークの方法論</p> <p>第 17 回：マルチメディア音楽 DB システムの利用方法</p> <p>第 18 回：データベース研究の基礎：①楽器を観る視点</p> <p>第 19 回：データベース研究の基礎：②画像収集の技術と方法論</p> <p>第 20 回：実習計画書の作成-画像実習に向けてー</p> <p>第 21 回：計画書の見直し・修正／エックス線撮影装置の解説</p> <p>第 22 回：エックス線撮影実習</p> <p>第 23 回：静止画撮影実習／模写実習①</p> <p>第 24 回：静止画撮影実習／模写実習②</p> <p>第 25 回：ドキュメンテーション実習：画像(画像編集ソフトウェアを用いて)</p> <p>第 26 回：エックス線撮影結果の解説／画像データの確認・分析・選定</p> <p>第 27 回：ドキュメンテーション実習／オーサリング実習：マルチメディア音楽 DB システム</p> <p>第 28 回：オーサリング実習：マルチメディア音楽 DB システム</p> <p>第 29 回：相互発表会／プレゼンテーション①</p> <p>第 30 回：相互発表会／プレゼンテーション②／まとめ・音楽データベース2に向けて</p>			
テキスト	「音を追究する」大橋理枝・佐藤仁美 著 (放送大学教育振興会)		参考文献	配布プリント等	
評価方法:					
<p>通信授業は提出課題3件を以って評価する。</p> <p>面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。</p>					